

////////////////////
学 界 消 息
 //////////////////////

	1号あたり 印刷費	1号あたり 編集費	発行号数
天 気	5.8万円	0.60万円	12
集 誌	16.0	0.40	6
気研ノート	6.3	0.90	8

1. 学会員大幅に増加

学会員は大約1,000名未満であったが、定款改正に伴う会員増加によって、約1,400名に大幅に増加し、現在その書類の整理に忙しい。

2. 庶務委員に須田健氏、飯田陸治郎氏

庶務は多忙を極めており、また最近外国との交流も盛んになって来たので、庶務委員を上記2氏に依頼することに、1月9日の理事会で決定した。

3. 理事の改選

来る5月に理事の改選が行われる。その選挙管理理事には松本氏があたり、選挙管理委員が近く決定される予定である。

4. 総会は5月17, 18, 19日委員長に正野氏

来る5月の総会、年会は、17, 18, 19日に行われ、総会委員長には正野重方理事、委員には神山、松本、岸保（順序不同）の各理事があたることになった。なお、また磯野謙治氏にも委員をお願いする予定である。

5. 学会創立75周年記念

明年は日本気象学会創立75周年にあたるので、理事会は昨年よりその計画をすすめ、昨年9月3日の理事会で、伊東理事がその実行委員長となり、75周年記念論文集の作成、懸賞論文募集、記念式、特別講演会等を検討している。

6. 原水爆決議文について、外国への質問書

1954年の総会において原水爆実験反対の決議文が作られ、諸外国の関係研究機関、学会等に送られ、それに対していくつかの機関は返答があったことは既報の通りであるが、その後も依然実験は行われている。これに対して、気象研究所原水爆調査グループは、上記決議文を送った機関に、つぎの内容の質問書を出すことを、日本気象学会理事長に要求して来た。

- (i) 決議発表後もつぎのような実験が行われている。
- (ii) それにもかかわらず決議文の主旨は有効であると確認する。
- (iii) 決議で訴えられたことに対して、どのような処置がとられたかを質問し、重ねて資料の公開、実験の禁止を訴える。

7. 印刷編集費増額

会費の変更と会員の増加に伴って、予算内容の検討が行われているが、暫定的に印刷編集費をつぎのように増額することになった。

8. 久米庸孝氏ドミニカに出張

前回の学界消息に述べたように、本年2月16日から行われる、WMOとドミニカ政府主催のハリケン・セミナーに、久米庸孝氏が出席されることに決定し、同氏は来る2月12日に羽田を出発する予定である。

9. 前回学界消息の訂正について

昭和31年度文部省科学研究費等分科審議委員に島山久尚、日高孝次、菅原健、佐々憲三、安芸皎一、正野重方の諸氏が決定したと報告したが、これは誤りで、日本学術会議に推薦する委員候補者として、地球物理学連合において決定したものである。この中から2名が同委員として最終的に決定される筈である。

////////////////////
 = 講演会日程予定表 =
 //////////////////////

5月17, 18, 19日	総 会	場 所	東 京 大 学
	講演と総会議題		
申込み期限	3月31日		
申込み先	東京大学地球物理学教室		都田菊郎
宿舎申込期限	4月20日		
6月	乱 流	8月	気象教育および気象学史
9月	気象医学	10~11月	降水、レーダー、雷、災害